

2023年10月1日

国際航空専門学校  
校長 大森 章生殿

## 学校関係者評価委員会 報告

学校関係者評価委員会

委員長 山下 奉利



2023年度学校関係者評価について、下記の通り評価結果を報告致します。

記

### 1. 学校関係者評価委員

出席者：

	氏名	所属
委員長	山下 奉利	学校法人浅野学園 国際航空専門学校 元校長
委員	百田 寛	株式会社JALエンジニアリング 総務部 組織・人財グループ グループ長
委員	小池 隆	全日本空輸株式会社 整備センター業務推進部 総務チーム マネジャー
委員	藤原 健太郎	株式会社JALグランドサービス 総務部 人事採用グループ 担当課長
委員	関 理恵	ANAエアポートサービス株式会社 人事部 人事課 マネジャー
委員	吉田 淳一	朝日航洋株式会社 航空事業本部 執行職
委員	山崎 一慶	多摩川エアロシステムズ株式会社 整備部 部長
委員	大森 章生	国際航空専門学校 校長
委員	山田 知良	国際航空専門学校 副校長
委員	増子 和久	国際航空専門学校 管理本部長 兼 教務部 エアロサポート科 学科長
委員	有海 和寿	国際航空専門学校 教務部 部長 兼 指定養成施設管理室長
委員	久我 教之	国際航空専門学校 管理本部 総務部 部長
委員	比企野 和也	国際航空専門学校 管理本部 就職指導部 就職指導課 担当部長
事務局	大野 恵	国際航空専門学校 管理本部 就職指導部 就職指導課 次長
事務局	高須 清美	国際航空専門学校 管理本部 就職指導部 就職指導課

欠席者：

	氏名	所属
委員	吉田 保夫	公益社団法人 日本航空技術協会 事務局長
事務局	石川 麻里子	国際航空専門学校 管理本部 業務部 次長

### 2. 学校関係者評価委員会 開催日

2023年8月22日（火）15：00～16：45 Zoom 使用によるオンライン会議

### 3. 2023年度学校関係者評価委員会 評価結果

2022年度の自己評価は妥当と判断する。尚、詳細は別紙のとおり。

以上

## 別紙

### (1) 学校関係者評価委員会の目的

学校関係者評価委員会は、専門学校に求められている「職業実践専門課程」の中に位置しています。「職業実践専門課程」とは、専修学校の専門課程であって、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的としており、文部科学大臣が認定して奨励することにより、専修学校の専門課程における職業教育の水準の維持向上を図ることを目的とするものです。「職業実践専門課程」における教育活動には、企業との連携により実践的な教育課程を編成する教育課程編成委員会、および学校を評価する為の自己評価委員会・本日開催の学校関係者評価委員会があります。学校評価が適切に行われているか、企業・業界団体等からの委員が適切であるか確認し、学校運営改善、情報の提供を行うことが学校関係者評価委員会の目的です。

### (2) 学校運営方針・重点施策・就職状況

#### ①学校運営方針

1. 高度な知識、能力、安全意識を有する航空技術者を育成し、航空業界の発展に寄与する
2. 健全な事務状況の確保。機材、施設等の確実な維持管理
3. 年度毎重点施策の提示
4. 学生個々の資質に対応した教育
5. 教職員の知見向上
6. 開かれた学校運営
7. 社会との繋がり

目的を含めて7項目の中から必要事項を取り上げて校長より年度初めの重点施策が提示されます。

#### ②2022年度 重点施策

1. 整備士資格取得 100%
2. エアロサポート科特殊車両実習合格率 80%
3. 入学者数 130名
4. 乙種4類危険物取扱者 初回合格者(1年次) 60%
5. TOEIC SCORE 470点
6. SPI 模試の実施

以上の2022年度の重点施策をもとに学校教職員は教育活動を行いました。

#### ③2022年度 就職状況

- |                          |         |      |
|--------------------------|---------|------|
| 1. 航空整備科飛行機コース           | 18名/18名 | 100% |
| 2. ハイブリッド型回転翼コース         | 10名/10名 | 100% |
| 3. ハイブリッド型一整準備コース        | 10名/10名 | 100% |
| 4. 運航整備科飛行機コース           | 3名/3名   | 100% |
| 5. 運航整備科航空技術コース          | 18名/18名 | 100% |
| 6. エアロサポート科グランドハンドリングコース | 20名/20名 | 100% |
| 7. エアロサポート科ビジネスコース       | 1名/1名   | 100% |
| 8. 全体                    | 80名/80名 | 100% |

2022年度の就職は厳しい状況でしたが、どのコースの学生もすべて内定を頂きました。

### (3) 2022年度自己評価結果の説明・審議

#### ① 評価項目別取り組み状況

##### 基準1 教育理念・目的・育成人材像

基準1-1-7 「教育理念・目的・育成人材像・特色・将来構想等が学生・保護者・関連業界等に周知されているか」

基準1-1-8 「理念等の浸透度を確認しているか」

より充実した広報活動の努力が必要。それ以外については多くが評価5ですが、評価4が何項目かありますので全体評価は4としています。

##### 基準2 学校運営

基準2-1-4 「運営方針の組織内の浸透度を確認しているか」

基準2-2-3 「事業計画に予算、事業目標等を明示しているか」

基準2-2-4 「事業計画の執行体制、業務分担等を明確にしているか」

運営方針、事業計画などは明確にして実施しております。

基準2-6-4 「情報システムを活用し、タイムリーな情報提供、意思決定が行われているか」

タイムリーに情報提供ができるように改善がなされてきたということで評価5になっております。しかし、改善の余地がある為、中項目として評価4としています。

##### 基準3 教育活動

基準3-2-15 「職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか」

基準3-2-18 「キャリア教育の効果について卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか」

卒業生へのアンケート実施準備が遅れておりましたが、3月に収集方法を確定しました。

卒業生への連絡方法を皆様にご協力いただきたく思っています。

《下記卒業生が在籍している3社に依頼をする卒業生と周知方法の確認》

・ANA ラインメンテナンスティクニクス株式会社様：全日本空輸株式会社 小池様

・株式会社 JAL エンジニアリング様：株式会社 JAL エンジニアリング 百田様

・朝日航洋株式会社様：朝日航洋株式会社 吉田様

学 校：卒業生名簿と手続きの方法を各社窓口の方に送らせていただきますので、お力添えの程よろしくお願いいいたします。長年の課題であったアンケートもこれで実施することが出来、感謝申し上げます。

##### 基準4 学修成果

コロナ禍でも授業をオンライン等で対応し、厳しい状況であったが就職・卒業・資格取得について成果が得られたのではないかという評価になっております。

就職先企業様との連携を図り、状況の把握に努めて参ります。

## 基準5 学生支援

基準5-2-3 「中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか」

担任、副担任を主体に、学生面談、状況把握、在籍しているカウンセラーを有効活用し学生のストレスを軽減して中途退学を減らす取組みをしております。

「哲学対話」というカウンセリング活動の実施（1年生：校外研修、2年生：就職指導）

状況を把握してサポートできる体制を実施しています。

基準5-6-4 「卒業後の活動に対する支援を行っているか」

卒業生に対し機体整備への招聘（コロナ禍で本校への来校がかなわず 2022年度は未実施）

多摩川エアロシステムズ様に就職した学生を対象にヘリコプターの点検作業と一緒に実施していただいてスキルアップを目指す活動をしておりました。

引き続き、ご協力をお願ひいたします。

学校関係者評価委員ではない企業様においても見学を兼ねながら簡単な教育活動に参加させていただくような活動を続けております。

## 基準6 教育環境

基準6-1-3 「図書室の図書は専門分野に応じて充実しているか」

内容的に不充分な部分があり、必要性のある専門分野図書の更なる充実を図ります。

基準6-1-4 「学生の休憩・食事のためのスペースを確保しているか」

敷地が狭い為、スペース確保が難しいが創意工夫により限られたスペースの有効活用を図って参ります。

## 基準7 学生の募集と受入れ

- ・高校訪問の再開
- ・指定校提携の拡大、会場型・高校ガイダンス積極的参加
- ・工業高校教諭対象の夏季講習会、進路指導教諭対象の羽田空港見学実施等航空業界裾野拡大の取り組み
- ・二等航空運航整備士(飛)コース募集中止  
定員30名の内、2022年度卒業生は3名。在籍学生が1割であった為、現在中止をしています。

重点項目の目標130名には達しておりませんが、努力をして実績を残してきたのではないかという評価をしています。

## 基準8 財務

基準8-1 「財務基盤」

基準8-2 「予算・収支計画」

今後も徹底的なコスト管理、業務改善、効率的な業務の意識付を実施します。

## 基準9 法令順守

基準9-1-3 「セクシュアルハラスメント等の防止の方針を明確化し、対応マニュアルを策定して適切に運用しているか」  
就業規則にハラスメント防止規程を策定しています。

基準9-1-5 「教職員、学生に対し、法令遵守に関する研修・教育を行っているか」  
・校内委員会、会議での周知  
・薬物乱用防止講座の開催  
・航空法改正勉強会の実施  
このような研修教育を実施し、法令順守の重要性を周知しています。

## 基準10 社会貢献・地域貢献

基準10-1 「社会貢献・地域貢献」  
基準10-2 「ボランティア活動」  
・地元高校生の夏期課題へのアドバイス  
(航空力学について知りたいということへのアドバイスを実施)  
・航空発祥記念館リニューアル意見交換会  
・献血への参加  
・所沢市内の町内会のまちづくり活動への参加 (SDGsポスター作成) 5コースの生徒が協賛をしてポスターを作成しました。

## ②2022年度重点項目達成についての自己評価

1. 航空整備士資格取得 100%：  
・38名/39名 97.4%となった。継続して目標達成を目指す。
2. 特殊車両実習合格率 80%：  
・特殊車両実習資格検定制度の制定を早急に行う。
3. 学生募集、入学者 130名：  
・入学者増は非常に厳しいが、方策を打ち立て引き続き増員を目指す。
4. 乙種4類危険物取扱者資格合格 60%：  
・合格率向上のため継続した取り組みを実施する。
5. TOEIC SCORE 470点：  
・クラスによる格差があり達成クラスと未達クラスがある為、レベルに応じた教育を実施する。  
・TOEIC受験機会を拡大する。
6. SPI模擬試験の実施：  
・反復訓練及び模試の実施を継続して行い、得点の向上を目指す。

## 【質疑応答・ご意見】

小池委員：(意見として)

- ① 自己評価報告書の「総括と課題」欄について、チェック項目のみを記載している箇所がある為、この欄には総括や課題を記載して頂けると分かり易いと思います。
- ② 評価について、やむ負えない事情により活動が出来なかった場合については数字を入れずにダッシュ表現でもよいのではないでしょか。

(質問)

- ③ 自己評価の基準によって中項目に評価4があると大項目評価も4と厳しい評価となっている項目があれば、大項目評価が5とされている基準がある理由を教えて下さい。
- ④ 重点目標達成についての自己評価にて「エアロサポート科特殊車両資格検定制度が設定できなかった理由を教えて下さい。

学 校：<ご意見について>

ご意見①②については、次年度より、そのように実施したいと思います。

<質問回答>

- ③ 次回より評価基準を統一したいと思います。
- ④ 1年半程かけてトヨタのトラクターの単独運転、パレットドーリーの牽引、コンテナドーリーの牽引等、技術を高め企業に入ってからの資格訓練に慣れておくことを目標にしています。昨年度は、実施することが出来ませんでした。本年度は再度取り組みをしており、ある一定のレベルに達した学生には校内の資格証を発行していく予定です。将来はそのような資格を持った学生には企業の訓練の緩和等があると魅力的な制度になるのではないかと考えております。

百田委員：(意見として)

自己評価について、昨年度の評価と比較ができるようにして頂けると、何処に注力されたかが分かり易いと思います。本年度の「今後の改善方法」は来年度の評価にも繋がっていくと思いますので、比較ができるように自己評価結果を取り纏めて頂けると良いと思います。

(質問)

中途退学者5名の理由について少し詳しく教えて下さい。入学者数が少ない中、何故入学した学生が辞めてしまうのか深く知りたいです。

学 校：<ご意見について>

次年度は改善点、改悪点について比較ができるように表記致します。

<質問回答>

退学者については、様々な理由がありますが1つの理由として少し弱い部分をもつている場合があります。また、入学時の志として方向性が違っていた。

学力が追い付けなくなってしまった等の理由が多くなっていることは事実です。出来る限りの対応はしているが支え切れなかつたことが原因のひとつだと思います。

百田委員： 現在、事業者側も日本航空技術協会様も含め、航空専門学校への入学者を増やす為に何が出来るかと考えていますので、是非、そのような情報を共有して頂き一緒に何が出来るのかと考えていきたいと思います。

藤原委員：(質問)

・基準7「学生の募集と受入れ」について

空港見学会や夏季講習会等、産官学の取り組みをさせて頂いている中で参加された学生の方々が、どのように入学に結びついているのか教えて頂きたいと思います。

また、数多くの高校訪問をされている中でコロナの影響以外で高校生の大学進学率や航空業界以外の他業界へ就職する学生の割合等、情報をお持ちでしたら共有して頂きたいと思います。

学 校： オープンキャンパスにて空港見学をさせて頂いている学生については確実に入学に繋がっています。また、高校訪問をしている中での情報としては、高校によって特色がありますが、大学進学を目指す学生が多くなっているように感じます。その理由の一つとして大学側が入学者数増加に力を入れており、その為、専門学校を目指す学生が減少している傾向にあります。

<その他の傾向>

・学生が求める職種について

手を汚したり、厳しい（暑い、寒い等）職場環境よりもアニメ、声優業界、美容業界、ペット業界等に人気が集中している。

藤原委員： 航空業界の認知度向上、裾野拡大については今後も是非一緒に進めさせて頂きたいと思います。また、今年度の取り組みで得られた情報を共有して頂ければと思います。

山崎委員：(意見として)

私共も高校訪問をしている中で高校の先生方より「信頼関係がないと学生に勧められない」という話を伺います。高校訪問は1度や2度の訪問では信頼関係を築くことは難しいと思います。現在、実施されていることは、いつかきっと結果として現れてくると思いますので、諦めずに継続して頂きたいと思います。

学 校： ご意見、励ましのお言葉を有難うございました。今後も継続して訪問し、信頼関係を築いていく努力を続けていきたいと思います。

吉田委員：(意見として)

航空専門学校の学生数が減少しているため、企業として高校生を獲得する考えがあり今後、高校生の取り合いになってしまいのではないかと考えています。その中で他業界に進んだ社会人の方に対して、航空業界を目指す商品があると良いのではないかと個人的に思います。

学 校：他業界から航空業界へ転職をするために入学をする社会人の方はおります。学校としては資格を取得してもらうだけではなく、就職先より内定を頂かなくてはいけませんので年齢的に難しい場合もありますが、今後も対応していきたいと思います。

関 委員：(質問)

基準4 「外部講師を招いて勉強会を実施している」部分について  
それぞれの学科でどのような外部講師を招き、どのような勉強をされているのか教えて  
頂きたいです。先生方から受ける授業とは違う視点からの講義はどのように行われて  
いるのか知りたいと思いお聴きしました。

学 校：外部講師による講義については下記のような講義を行っています。

- ・日本航空技術協会 伊藤博行会長をお招きし、航空業界全般についての講義
- ・埼玉県より講師をお招きし、薬物使用防止についての講義
- ・ドローン教育機関代表者様よりドローン業界からみた最新の社会情勢等の講義
- ・マナー講師をお招きし、立ち振る舞い、お辞儀の仕方等の講義

関 委員：各学科により、特徴と要素が異なってくると思いますので、それに合った外部講師による情報が今後、必要となってくると思われるのでは是非、継続して頂きたいと思いました。

(4) 2023年度 教育計画について

例年通りにスケジュールを作成しております。

(5) 2023年度 重点施策について

本年度は大きく変わりません。

山下委員長：コロナ禍で大変な環境の中で模索され、また少子化等の厳しい状況の中で努力をされている様子が伺えました。委員の皆様から貴重なご意見を頂き有難うございました。お互いが出来ることを出し合い、結果が少しでも前向きになるよう願っています。

(6) 各評価項目について、評価委員による審議

各項目とも評価レベルは妥当と判断する。

(7) 評価対象期間

自：2022年4月 1日

至：2023年3月 31日

(8) 実施方法、公表

学校関係者評価にあたっては学校関係者評価委員の皆様に「2022年度自己評価報告書」の結果について学校より説明し、評価結果に対する意見を頂いた。

頂いた意見は本報告書として取り纏め、今後の教育活動や学校運営の改善に活かし教育水準の向上に努めることとし、ホームページ等で公開する。

以 上